



Title	竹中浩教授略歴・主要著作目録
Author(s)	
Citation	阪大法学. 2019, 69(3-4), p. 408-414
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/87239
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

竹中 浩教授
平田健治教授
略歷 · 主要著作目錄

竹中 浩教授 略歴

昭和二八年八月	岐阜県岐阜市に出生
昭和四七年三月	岐阜県立岐阜高等学校普通科卒業
昭和五二年三月	東京大学法学部第三類卒業
昭和五四年三月	東京大学大学院法学政治学研究科修士課程修了（法学修士）
昭和五八年九月	東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了（法学博士）
昭和五九年四月	大阪大学法学部助教授
平成 七年九月	大阪大学法学部教授
平成 九年八月	大阪大学評議員（平成一一年七月まで）
平成一一年四月	大阪大学大学院法学研究科教授
平成一六年四月	大阪大学教育研究評議員（平成二〇年三月まで）
平成二三年四月	大阪大学教育研究評議員（平成二四年三月まで）
平成二四年四月	大阪大学大学院法学研究科長・大阪大学法学部長（平成二八年三月まで）
平成三二年三月	大阪大学定年退職
平成三二年四月	大阪大学名誉教授
平成三一年四月	奈良大学教授 現在に至る

主要著作目録

I 著書

(1) 学術書

『ソヴィエト政治秩序の形成過程——一九一〇年代から三〇年代へ』（共著）岩波書店
Empire and Society: New Approaches to Russian History. Sapporo: Slavic Research Center. (共著)

昭和五九年 三月

平成 九年 六月

平成 九年一〇月

平成二七年七月

平成二七年三月

平成三〇年三月

令和 元年九月

『近代ロシアへの転換——大改革時代の自由主義思想』（単著）東京大学出版会
『言葉の壁を越える——東アジアの国際理解と法』（編著）大阪大学出版会
『日本型法治主義を超えて——行政の中の法の担い手としての法曹・公務員』（共著）大阪大学出版会
『模索するロシア帝国——大いなる非西欧国家の一九世紀末』（単著）大阪大学出版会

(2) 教科書・一般書（すべて共著）

『ロシア近現代史——ピョートル大帝から現代まで』 ミハルヴァ書房

平成一年六月

『日本政治——過去と現在の対話』 大阪大学出版会

平成二七年一〇月

平成二三年四月

『大学で学ぶ西洋史（近現代）』 ミハルヴァ書房

平成二六年九月

平成二六年九月

『西洋政治思想資料集』 法政大学出版局

平成二八年一月

平成二八年一月

『ロシアの歴史を知るための50章』 明石書店

II 論文（すべて単著）

「初期スラヴ派の政治理想——コンスタンチン・アクサコフの政治理想を手掛りとして——」

昭和五五年七月

『国家学会雑誌』 九三卷第七・八号

昭和五九年九月

「道標転換派と一国社会主義」『ソビエト史研究会報告第二集 スターリン時代の国家と社会』

「ロシア自由主義とトクヴィル—チエーリンの『アンシャン・レジームとフランス革命』批判—」

『思想』七三三号

昭和六〇年七月

「ロシア自由主義の形成過程（二）—『大改革』時代における社会認識と制度論—」

『国家学会雑誌』九九卷五・六号

昭和六一年六月

「ロシア自由主義の形成過程（二）—『大改革』時代における社会認識と制度論—」『国家学会雑誌』

九九卷九・一〇号

昭和六一年一〇月

「ロシア自由主義の形成過程（三・完）—『大改革』時代における社会認識と制度論—」

『国家学会雑誌』一〇〇卷一・二号

昭和六二年二月

「大改革期ロシアにおける地方行政制度の再編—1858—1864年—」『スラヴ研究』三九号

平成四年

「大改革期のロシア官僚制—アメリカ合衆国との比較—」『阪大法学』四二卷一・三号

平成四年一月

「ロシアにおける農奴制の廃止と地方政府—一八五七—一八六二年のニジェゴロド県—」

平成五年一月

『阪大法学』四三卷一・三号

平成六年八月

「大改革の時代における貴族及び貴族主義」『ロシア史研究』五五号

平成六年一月

「ソ連邦の歴史学におけるマルクス主義以前の革命運動—革命的ナロードニキ主義と

平成六年一月

「ロシア・アナキズムの評価をめぐる若干の問題点について—」『阪大法学』四四卷一・三号

平成六年一月

「帝政期におけるロシア・ナショナリズムと同化政策—沿バルト地域のロシア化を手掛かりにして—」『年報政治学』三九号

平成六年一二月

「大改革期ロシアにおける警察法学と自治論—レシコーフの社会法論を手がかりにして—」

平成七年一〇月

『阪大法学』四五卷三・四号

平成八年一〇月

「改革後ロシアのゼムストヴォと立憲主義—一八六五—一八八二年—」『阪大法学』四六卷四号

平成八年一〇月

「近代ロシアにおけるナショナリズムと宗教政策—ロシア帝国における福音主義的セクトの問題をめぐって—」『ロシア史研究』六四号

平成一一年四月

「帝国の時代におけるリージョンとマイノリティ－ロシア・メノナイトのカナダ移住を手がかりにして－」

『年報政治学2007-II 排除と包摶の政治学』 平成一九年一一月

「帝国の時代における移民問題と黄禍論－マイノリティの同化に関する比較史的研究のための
予備的考察－」『阪大法学』五八卷三・四号

「汎スラヴ主義と露土戦争－大改革後ロシアの保守的ジャーナリズムにおけるナショナリズムの
諸相－」『阪大法学』五九卷三・四号

「東清鉄道の敷設と露清国境－ドゥホフスコイ総督のロシア極東觀を中心に－」

『阪大法学』六一卷三・四号

「東清鉄道の敷設と露清国境－ドゥホフスコイ総督のロシア極東觀を中心に－」

『O молернизации и ее национальной специфике // Российская история. №4.

「北東アジアにおける行政制度の整備と『日本の経験』」『阪大法学』六三卷三・四号

“Twenty Years of the Russian Constitution: Constitutionalism and Local Self-Government,”

Osaka University Law Review, No. 61.

「アレクサンドル三世とその時代－ナショナリズムと國家統治の間で－」『ロシア史研究』九四号

「東アジアにおける法分野の相互理解と日本の役割」『阪大法学』六四卷三・四号

「ロシア革命とクロポトキン」『Север (セーヴェル)』三四号

「ヴィツテーク相期ロシアのジャーナリズムと中国問題－『ノーヴォエ・ヴレーマヤ』と

『ヨーロッパ通報』の論調を中心として－」『阪大法学』六七卷六号

「社会的排除の抑制と公私協働－福祉施策の前提に関する日米の比較可能性をめぐつて－」

『日本とブラジルからみた比較法（二宮正人先生古稀記念）』信山社

III 学会報告等

「近代ロシア思想とヨーロッパ」日本政治学会（新潟大学）報告

「農奴制の廃止と自由主義」ロシア史研究会大会（法政大学）報告

昭和五九年一〇月
昭和六二年一〇月

令和 元年 七月

政治思想研究会 研究会テーマ「政治思想における非正統的伝統」（慶應義塾大学）報告 平成四年五月

「大改革の時代における貴族及び貴族主義」ロシア史研究会大会（慶應義塾大学）報告 平成五年一〇月

"Land-owning Nobles and Zemstvo institutions: The Post-Reform Estate System in Political Perspective,"
The International Symposium at the Slavic Research Center (北海道大学) 報告 平成六年七月

「ロシア帝国の民族政策と宗教」日本政治学会（國學院大学）報告 平成二一年一〇月

「黄禍論とロシア—ロシア極東朝鮮人問題を手がかりとして—」ロシア史研究会大会

（早稲田大学）報告

「スラヴ世界における西と東」二〇〇九年度JSSEESシンポジウム（秋田大学）報告 平成一九年一月

「ドゥホフスコイ総督期におけるロシア統治の諸問題—満洲における鉄道敷設の問題を中心にして—」

第五回国際シンポジウム「現代中国と東アジアの新環境—百年中国と周辺地域」（内蒙古大学）報告

「公法分野の法整備支援」第二回比較法シンポジウム（長春理工大学）報告 平成二二年一〇月

「国際セミナー「北東アジアの自治—課題と展望—」（大阪大学）問題提起 平成二四年七月

「国際シンポジウム「多文化共生時代の法と言語」（大阪大学）問題提起 平成二五年三月

「アレクサンドル3世とその時代」ロシア史研究会大会（明治大学）報告 平成二五年九月

「19世紀末ロシアの中国認識と義和団の乱」第九回国際シンポジウム 平成二五年一〇月

「現代中国と東アジアの新環境—百年中国と周辺地域」（吉林師範大学）報告 平成二七年一二月

「ロシアの公的部門における法律専門家」

「国際シンポジウム「公的部門における法の担い手のあり方と行政法・行政法学」（大阪大学）報告 平成二九年二月

「明治維新と大改革—比較の可能性と西欧—」ロシア史研究会大会（首都大学東京）報告 平成二〇年一〇月

IV 翻訳

I・バーリン 「注目すべき一〇年間」『ロマン主義と政治』(バーリン選集3)』岩波書店

昭和五九年 九月

メルヴィン・リクター「專制政治」『法・契約・權力』平凡社

昭和六二年七月

▽ その他

「Abbott Gleason, *Young Russia: The Genesis of Russian Radicalism in 1860s* (New York: The Viking Press, 1980, xiv+437pp.)」(書評)『國家學會雑誌』九四卷七・八号

昭和五六年七月

「近代ローハト思想と一口ハベ—初期ベラツ派思想の継承と展開—」(学会報知の歴史)

昭和六一年三月

「年報政治学1985」

昭和六一年七月

「『專制政治』」(翻訳の解説)

昭和六一年三月

“Debate,” in: Takayuki Ito (ed.), *The World Confronts Perestroika: The Challenge to East Asia*. Sapporo: Slavic Research Center.

平成二〇年

“Comment,” in: Osamu Ieda (ed.), *New Order in Post-Communist Eurasia*.

平成二〇年

Sapporo: Slavic Research Center.

平成五年

“SUGURURA Shuchi, *Rosia Jiyushugi no Seiji Shiso (Political Philosophies of Russian Liberalism)* (Tokyo: Miraisha, 1999), 363 pp.” *Japanese Slavic and East European Studies*, vol. 20. (書評)

平成二一年三月

[Mary Schaeffer Conroy (ed.), *Emerging Democracy in Late Imperial Russia: Case Studies on Local Self-Government (the Zemstvos), State Duma Elections, the Tsarist Government, and the State Council before and during World War I*] (書評)『ローハト史研究』六六号

平成二一年四月

「近代ローハトにおける自由主義の諸問題—必浦秀一著『ローハト自由主義の政治理想』を読くべ—」(書評)『史学雑誌』一〇九編九号

平成二一年九月

「比較のなかの近代ローハト」『J.P.』一九卷一〇号

平成二一年一〇月

“NAKAMURA, Yoshikazu, *Buki o yaku: Rosia no heiwaishugisha tachi no kiseki (Burn Arms: The Track of Russian Pacifists)*” Yamakawa shuppansha, 2002. 188pp., *Japanese Slavic and East European Studies*, vol. 23. (書評)

平成一五年五月

「高橋一彦著『帝政ロシア司法制度史研究—司法改革とその時代—』」（書評）『史学雑誌』一一一編七号 平成一四年
七月

「アレクサンドル1世」『歴史学事典』第一二卷（弘文堂） 平成一七年三月

「豊川浩一『ロシア帝国民族統合史の研究—植民政策とバシキール人—』」
（書評）『西洋史学』二二五号

「橋本伸也『帝国・身分・学校—帝制期における教育の社会文化史』」（書評）『ロシア史研究』八七号

「橋本伸也『帝国・身分・学校—帝制期における教育の社会文化史』」（書評）『ロシア史研究』八七号

平成一九年六月

「鶴見太郎『ロシア・シオニズムの想像力・ユダヤ人・帝国・パレスチナ』」（書評）
『ロシア史研究』九〇号

「科研基盤研究B中間報告書「公文書管理法制の比較法政史 データブック編」」
「科研基盤研究B成果報告書「公文書管理法制の比較法政史 分析編」」

「科学研究費補助金基盤研究A成果報告書（編集）「高度法情報発信のための多言語情報の
最適組み合わせに関する研究」」
『牡丹江市とその周辺』『Cesep（セーヴェル）』三一〇号

平成一四年一二月
平成二五年三月
平成二六年三月
平成二六年三月

「満洲里、ジャライノール、フルン湖」『Cesep（セーヴェル）』二二二号

平成二六年三月
平成二六年三月
平成二九年三月